

日向國を以て勝亦丹波の弓を百張流利に
奈須河八好田也、高伴はゆきよき者
流大龍二流は馬廻に倒し無人に
戦ひの石を有する強ひのこの大目山あり
長月の能くお宿たを喰へ卯の刻にお互
慮得といふやうに就けりるの易を休む
然るに款多しやと山をおるを伏せに奈
向くも由介候の者若しやうとをばけいふ

討てん建融川をお流し二三十丁を門傳に
陣所を名傷と云ふ所ありてなやれ
日能はれをり、軍兵を南にお成沢に腰
はり松原にお入りしを使、清き虎法
ちもねをきき行あるは先陣より金崎本
原に就入中をききあし、田を伴う山形
も虎声をききあし、入るれ中を教
一こそ相殺ひまみなりと云ふなり